

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第3号（普通期水稻）

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 mm	平年値 mm	平年差 (%)	本年値 時間	平年値 時間	平年差 (%)
5月	1	17.5	17.4	0.1	23.4	22.4	1.0	11.9	12.8	-0.9	9.5	20.1	47	41	35.5	115
	2	16.4	18.1	-1.7	21.4	23.1	-1.7	11.9	13.6	-1.7	115.5	24.4	473	21.1	35	60
	3	18.1	18.8	-0.7	23.7	23.7	0.0	13.8	14.3	-0.5	8	26.1	31	38.1	35.1	109
	4	20.4	19.4	1.0	25.0	24.3	0.7	16.9	15.0	1.9	15.5	22.2	70	34.8	35.5	98
	5	18.8	19.9	-1.1	25.0	24.8	0.2	14.1	15.7	-1.6	0	17.8	0	31.9	34	94
	6	22.4	20.4	2.0	26.8	25.0	1.8	19.1	16.5	2.6	73.5	18.5	397	38.5	37.1	104
6月	1	21.4	20.9	0.5	26.2	25.2	1.0	17.4	17.3	0.1	15.0	18.2	82	26.2	27.3	96
	2	20.7	21.4	-0.7	25.1	25.4	-0.3	17.6	18.2	-0.6	26.5	27.2	97	18.3	24.5	75
	3	23.0	21.9	1.1	28.0	25.7	2.3	20.1	19.0	1.1	0.5	40.5	1	28.0	22.3	126
	4	23.5	22.4	1.1	30.0	26.1	3.9	19.4	19.6	-0.2	0.0	54.5	0	45.1	20.6	219
	5	23.0	23.0	0.0	26.9	26.6	0.3	20.5	20.4	0.1	63.0	65.1	97	16.7	17.8	94
	6	26.7	23.9	2.8	30.0	27.3	2.7	24.1	21.3	2.8	57.0	73.6	77	6.1	14.8	41
7月	1	26.0	24.7	1.3	29.9	28.0	1.9	23.3	22.2	1.1	176.5	87.3	202	11.2	15.2	74
	2	26.6	25.3	1.3	29.9	28.7	1.2	23.9	22.8	1.1	280.5	92.9	302	12.6	19.9	63
	3	28.5	26.0	2.5	31.8	29.6	2.2	26.0	23.2	2.8	3.0	74.1	4	21.1	26.4	80

・6月5半旬以降曇天・雨天が続き、日照時間は短くなった。7月7日から10日に断続的な降雨が続き、7月2半旬の合計雨量は280mmとなった。特に、7月10日は121.5mmの降雨があり、管内の一部地域では大雨による圃場の浸冠水、土砂流入が見られている。

2. 生育状況（調査日：7月18日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ 唐津市巖木 町天川 5/14 移植 標高 650m	本年 値	83.5	396	12.0	39.8	・草丈は高い ・茎数は平年並み ・出葉は平均並み ・葉色は濃い
	平年 値	75.4	385	12.1	36.1	
	平年 比	111	103	-0.1	+3.7	

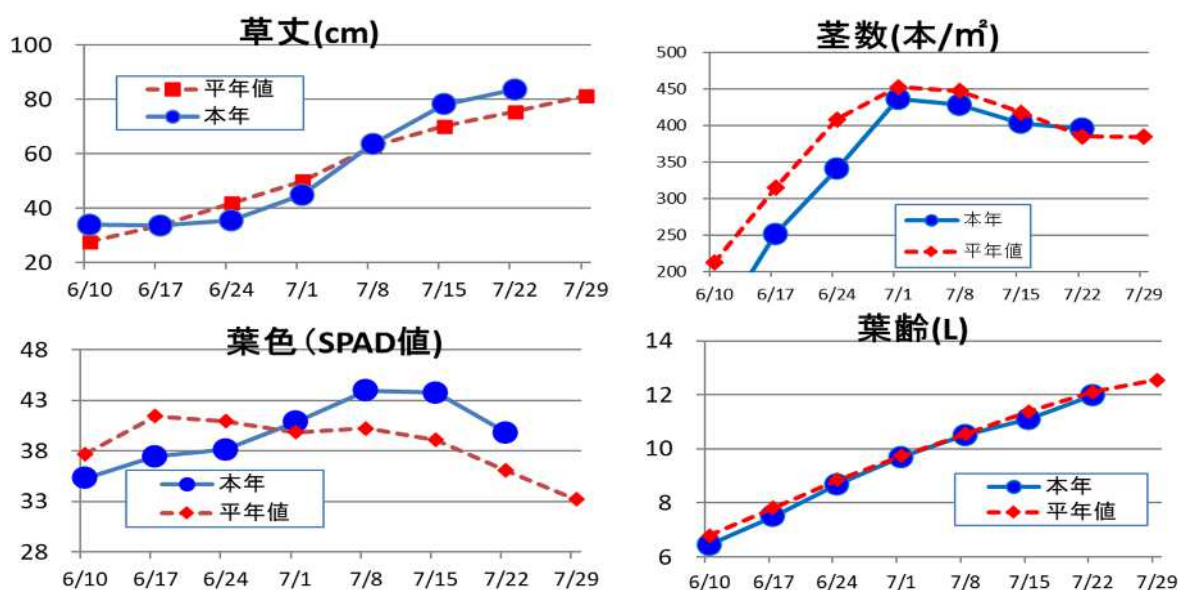
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年	63.5	226	10.0	41.1	・茎数は少ない ・出葉は遅い ※ 平年値は佐志の H29~R2 の平均値 のため参考
	平年	62.3	348	10.4	38.2	
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主幹 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/21 移植	本年	49.8	291	9.9	42.9	・草丈は平年より低い ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年より遅い ・葉色は平年より薄い
	平年	45.1	403	9.5	43.8	
	平年比	110	72	+0.4	-1.1	

(1) 山間早植え

作況ほの「コシヒカリ」は、5月14日に移植された。移植後曇天が続き生育が抑制されたが、5月中旬から6月初めにかけて天候が回復し好天が続いたことから、分けつの発生も盛んとなり生育は回復し、草丈・茎数ともに平年並みとなった。7月2半旬の断続的な降雨により、草丈はやや高くなり、茎数はやや少なくなった。7月4日に幼穂長1mm、節稈長1cmを確認している。

作況ほでは、いもち病やウンカなどの病害虫も今のところ発生していない。

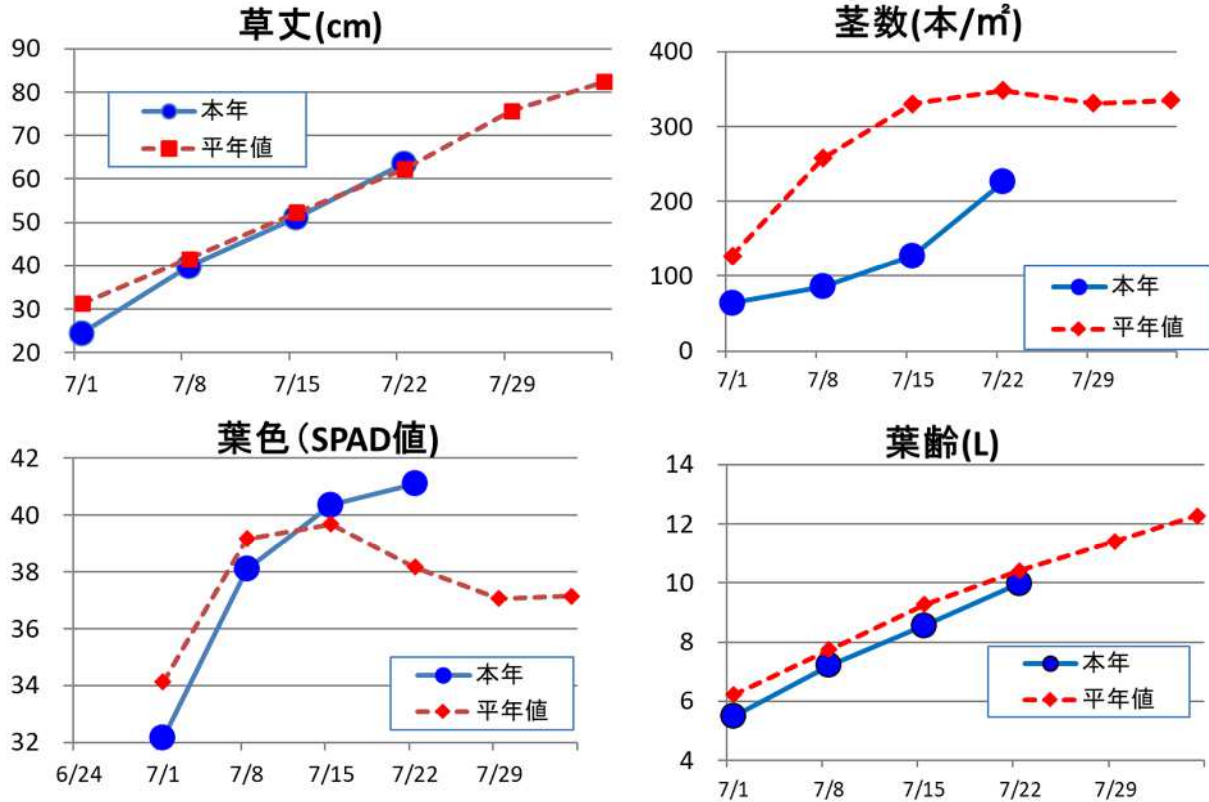
◎コシヒカリ作況圃の生育グラフ(厳木町天川)



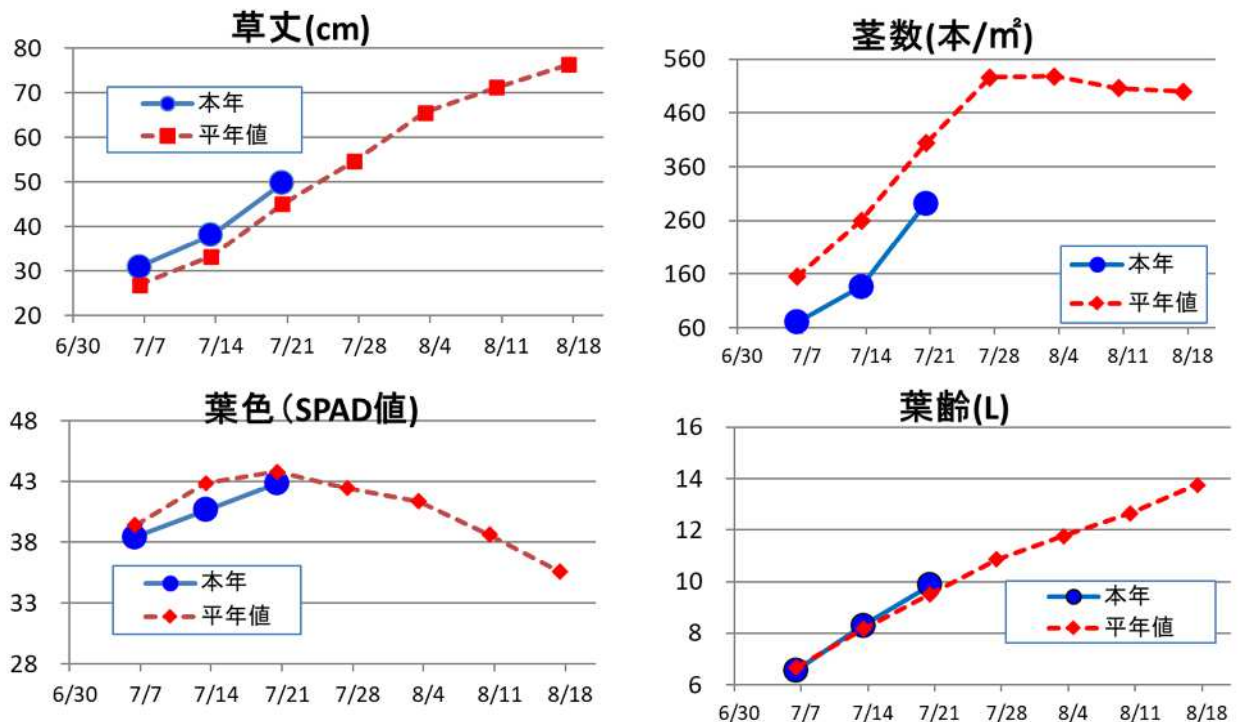
(2) 普通期水稻

作況ほの移植時期であった6月中旬は比較的天候が安定したため、活着は良好であった。7月に入り降雨や曇天が続いているため、分けつの発生は抑制されている。

◎夢しずく作況圖の生育グラフ(相知町伊岐佐)



◎さがびより作況圖の生育グラフ(相知町相知)



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

- ・コシヒカリの現在の生育ステージは最高分けつ期は幼穂形成期～減数分裂期となっている。
- ・中干し後、軽く足跡がつく程度に固まった圃場では間断灌水を行う。
- ・幼穂形成期から穂揃期はイネが最も水を求める時期であるため、浅水管理とする。

②病虫害管理

- ・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、多発生が懸念される。6 ページの防除資料や発生予察情報、ほ場の発生状況を参考に適期防除に努める。
- ・「いもち病」の病斑が見られる場合は、地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。
特に上位葉に病斑がある場合は穂いもちが懸念されるので出穂前の防除を行う。
ただし、特別栽培認証制度を申請した圃場では、農薬成分カウント数に注意する。

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
トライフロアブル (テブフロキン)	2回以内	2回以内	収穫14日前まで	
オリブライト1キロ粒剤 (メミノストロビン)	1回以内	1回以内	出穂10日前まで	湛水散布
カスミン液剤 (カスガマイシン)	2回以内	本田2回以内	穂ぞろい期まで	
コラトップ粒剤5 (ピロキロン)	2回以内	本田2回以内	葉いもち:初発10日前～初発時 穂いもち:出穂30～5日前まで	湛水散布
ビーム粉剤DL (トリシクラゾール)	3回以内	本田3回以内	収穫7日前まで	穂ばらみ期での 散布効果が高い

(2) 普通期水稲

①栽培管理

1) 6月上旬に移植された「夢しずく」は茎数の確保が進んで有効分けつ決定期から最高分けつ期となるので中干しを実施する。

有効茎数 20 本/株程度が確保されたほ場では中干しに入る。(草丈目安概ね 50cm)

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ

2) 6月中旬以降に移植された「さがびより」および「夢しずく」は茎数が確保されていないほ場がある。引き続き浅水管理を行い、分けつ促進と茎の充実を図る。

- ・一部圃場ではスクミリングガイの食害を防ぐ目的で過剰な落水を行い、田面が露出してひび割れが生じている。このような圃場では適宜通水を行い、茎が硬化したら浅水管理に移行する。

②夢しずく穂肥診断

夢しずくは7月中旬以降穂肥施用の時期となってくる。

幼穂長が1mm確認出来たら下記の穂肥診断基準に基づいて穂肥を施用する。

1)「夢しずく」の穂肥診断基準(県基準)

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		窒素成分 kg/10a
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	
73cm以下	3.0以下	34以下	20-22	1mm	3.0
	3.0-3.5	34-38	18-20	2mm	3.0
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.5-2.0
	3.8以上	40以上	施用の場合止葉抽出終了まで		1.0以下
73-79cm	3.0-3.5	34-38	18-20	2mm	1.5-2.0
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.0
	3.8以上	40以上	施用しない		0.0
80cm以上	原則として施用しない				0.0

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

2)夢しずく出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)	
-27	0.1	← 幼穂形成期
-23~ -20	0.3~ 0.8	
-20~ -18	1~ 2	← 穂肥施用時期の目安
-18~ -16	3~ 5	
-15~ -12	5~80	
-12~ -10	80~100	
-7~0	100~200	

③病害虫管理

- ・いもち病の発生は今のところ確認していないが、今後の長雨で発生が予想される。置き苗はいもち病の発生源となるため早急に撤去する。
 - ・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、多発生が懸念される。6ページの防除資料や発生予察情報、ほ場の発生状況を参考に適期防除に努める。
 - ・雑草発生が早くから見られる。特に「コナギ、ホタルイ、ノビエ」について発生が多い圃場では、中後期除草剤の対応に遅れないようにする。
- なお、特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。

トビイロウンカの防除について

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ				
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県		
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市
	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
	30日	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
7月	1日	0	12	0	0	0	0	70	1	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0
	3日	0	15	0	0	0	0	75	0	0	0
	4日	0	4	0	0	0	0	13	19	0	0
	5日	0	19	0	0	0	1	23	31	0	0
	6日	0	3	0	0	0	0	43	0	2	0
	7日	0	4	0	0	0	2	6	0	4	0
	8日	0	14	0	0	0	0	14	1	0	0
	9日	0	3	0	0	0	1	16	6	1	0
	10日	0	0	1	1	0	0	15		0	0
	11日		2		0	0		10		0	0
	12日										

佐賀県農業防除技術センター
海外飛来性害虫情報第6号より
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

7月1日～8日に多数飛来が認められている

7月1日～8日の飛来のウンカの防除適期

成虫・卵 7/1～ 20	幼虫 7/21～ 28	成虫・卵 7/29～ 8/19	幼虫 8/20～ 26	成虫・卵 8/27～ 9/下旬
--------------------	-------------------	-----------------------	-------------------	-----------------------

防除適期

防除適期

- ・防除適期は(若齢)幼虫の時期であるため、時期を逃さないよう防除を行う。
- ・本表はあくまで目安です。耕種条件により、発生量が異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認し、防除計画を立てること。
- ・今後のさらなる飛来により、防除の適期が変わる場合がある。佐賀県農業防除技術防除センターのウェブサイトの最新情報を参照すること。



大雨による浸水・冠水被害対策

7月7日から断続的に続いた大雨により、浸水・冠水した水稲ほ場が見られる。

以下の留意点を基本として、大雨による被害対策に努めること。

なお、下記の作業については、天気予報等を確認し、河川や水路の増水や土砂崩れなどの危険がないことを十分確認した上で行うこと。

(1) 共通事項

- ① 浸冠水した場合は、退水後速やかに新しい水と入れ替えたのち、発根・分けつの促進、根の老化防止や稲体の支持力を高めるため、しばらく落水状態とし、圃場の地耐力が不十分（土壌が軟弱）な場合は表層排水を促すよう明渠（作溝）を整備する。
- ② 浸冠水を受けると、稲の抵抗力が弱まるため病虫害の発生が多くなる場合があるので、圃場をよく見回り、早期発見につとめ、発生に応じ薬剤防除に努める。
- ③ 白葉枯病が発生した場合は、本田の生育が回復した後、薬剤防除に努める。
- ④ 上位3葉に葉いもちが発生している場合、穂ばらみ期と合わせて、穂揃い期に穂いもちの臨機防除を実施する。
- ⑤ 水路や畦畔が土砂で埋まったり、崩れたりしているところもあるため、水路や畦畔等を確認し、清掃や整備を行う。

(2) 山間早植え水稲

- ① 水稲の生育期間で最も水を要する時期であるため、浸冠水し落水する場合も黒乾状態を保つようにする。

(3) 普通期水稲

- ① 土砂や草木、ゴミ等の吹き寄せ・流入等により稲株を押し倒し、覆い被さっている場合は、速やかにレーキ等で取り除く。併せて、用排水の管理をきめ細かく実施し、豪雨による有機物の浮き上がりを防止する。
- ② 浸冠水で水稲が軟弱となった圃場では、スクミリングガイの被害を受けやすくなる。また大雨で水路から圃場へ水が流入すると、スクミリングガイが再侵入し被害が拡大する恐れがある。天候回復後は、浅水にして貝の活動の抑制に努めるとともに、必要があれば薬剤防除を実施する。
- ③ 浸冠水田の中間追肥は、施用時期が遅くならないように留意し、施用量は被害の程度によって減ずる(晩生品種)。
- ④ 雑草防除について、これから除草剤を散布する場合、流れ葉となっている圃場では稲の回復を待って散布し、流れ葉となっていない圃場では天候回復後に、使用時期の範囲内で速やかに散布する。
- ⑤ 除草剤処理直後にオーバーフローした場合は除草剤の再散布を検討する。再散布の際は、始めに散布した除草剤の成分の使用制限に留意しつつ、雑草の発生程度に応じた除草剤を選択する。処理後、2～3日経過していれば、効果は期待できるので、雑草発生を見極めながら、中・後期の除草剤で対応する。

令和5年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター
水田農業・畜産担当

